

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

苦しいときも雇用を守ることが社会貢献の一丁目一番地 日覺 昭廣 (東レ代表取締役社長)

1. 苦しい状況でも雇用を守るのは、社会貢献の一丁目一番地で「人を大事にすること」だ。人材育成の中で最も重要なことは何か。しっかり「基礎」を教えることだ。世の中には「とがった人材」というような飛び道具がいるんじゃないかと考える人もいる。だが基礎ができていなければよほどの天才を除きそんなことはあり得ない。
2. イノベーションのプロセスは「守破離」だと思う。徹底的に基本を学ぶことで製品や品質が理解できる。これが「守」。そこから自分で少しずつ改良を加えて流派を変えていく。これが「破」。全部マスターしてきたとき、全く新しい「離」が生まれる。イノベーションとは、物事を徹底的に理解して追究した先にはぽこっと出てくるものだ。何も無いところから出てくるイノベーションなど、空想でしかない。だからこそ、基礎をおろそかにせず、継続的に長い目で人を育てていくことが重要なのだ。
3. トップから末端まで、よく育成された人材で構成される組織は強い。そうした組織を作るには、長期的な視点が不可欠だ。景気の良い時に採用し、景気が悪い時は切るのでは、真の意味での会社の継続性はなくなり、将来もなくなる。物事が日々大きく変動する世の中だからこそ人が大事で、「人を基本とする経営」が世界のあるべき姿だと信じている。
(参考:「日経ビジネス」2020年4月13日号)

経営者のための営業学

テークアウトに強いKFC

1. 厳しい環境の外食産業の中でも、底力を発揮しているのがファーストフード業態だ。とりわけ好調をキープしているのが、「ケンタッキーフライドチキン(KFC)」を運営する日本KFCホールディングス(HD)。外食各社が新型コロナの感染拡大を2月の業績不振の理由にする中、KFCの2月の既存店売上高は前年同月比13%増と絶好調だ。
2. KFCはもともと持ち帰り客の比率が約7割と、テークアウトに強かった。加えて最近では500円ランチの導入や「今日、ケンタッキーにしない？」とのフレーズをテレビCMで打ち出し日常使いの訴求を続けたことで、自粛ムードであっても抵抗感なく利用されていることがうかがえる。競合はファーストフードだけでなく、コンビニとスーパーも視野に、テークアウト需要を満たす工夫が存在感の一因でもある。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2020年4月11日号)

新規成長分野

「お寺ステイ」「寺ワーク」の広がり

1. 「コミュニティの中核だったお寺の生き残りを手伝えないか」。2人の女性経営者が立ち上がった。「お寺ステイ」。全国の寺院を宿泊施設として活用し、海外から日本にやってくる外国人観光客らに提供する。厳しいお寺の経営状況をいくらかでも改善すると共に、日本の精神文化を発信する拠点にもなる。2人とは、雲林院奈央子氏(上智大卒業後ワコール入社)と佐藤真衣氏(早稲田大卒業後、投資ファンド等を経て会社社長)。2人は2016年6月に、「シェアウィング」を設立。
2. 今、力を入れようとしているのが「寺ワーク」。お寺を拠点にリモートワークすることを提案しているのだ。集中して働き、心を整え、地域を知って、地域性を楽しむには、お寺がぴったり、というわけだ。シェアウィングのスタッフは総勢16人ほど。僧籍を持つ若手や宿泊業の専門家が加わるなど、「チーム」が大きく広がっている。

(参考:「Wedge」2020年5月号)

古典に学ぶ

修養は理論ではない実行である

(解説) 修養はどこまでやらねばならぬかというに、これは際限がないのである。けれども空理空論に走ることが最も注意せねばならぬ。修養は何も理論ではないので、実際に行うべきことであるから、どこまでも実際と密接の関係を保って進まねばならぬ。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)

